

# 4-1 ひび割れ補修(パッカー併用手動ポンプ高圧注入工法)

打放しコンクリートのひび割れ幅が大きく、表面がエフロで汚染したひび割れ補修

## 施工手順

## 施工方法

**補修範囲の確認**

- ・クラックスケールで検出し、ひび割れに沿ってマーキングし補修範囲を確定する。

**ひび割れ表面V研**

- ・ひび割れに沿って深さ約30mm、巾30mmにV研り、ケレン清掃を行う。

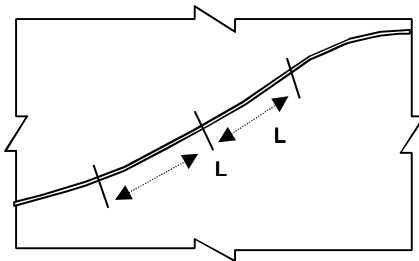
**V研表面断面復旧  
シール処理**

- ・研部分を清掃し、エポキシ樹脂パテ材でV研り部分を断面復旧する。使用するエポキシ樹脂パテ材は、可使用時間内に使用可能な量を既定配合比で計量混合する。
- 乾燥面: ボンドE2370M(主剤 2:硬化剤1配合)  
湿潤面: ボンドE380 (主剤 1:硬化剤1配合)

**注入孔の削孔**

- ・所定の削孔位置にφ10mm、深さ50mmで削孔する。

ひび割れ幅	L	注入口間隔
0.5~1.0mm		150~250mm
1.0mm以上		250~300mm



**注入孔内の清掃**

- ・穿孔内の切粉は、ブラシでかき出し、圧縮空気を吹込み排出しひび割れの開口を確保する。
- ・孔内が湿潤し汚泥状スラッジがある場合は水洗及び、簡易高圧洗浄機で洗浄除去する。
- ・洗浄後ブロワー等で可能な限り孔内を乾燥させ粉塵を除去する。

**注入金具の装填**

- ・注入孔へ専用の注入金具(パッカー)を挿入し、レンチで金具のゴムパッキングの拡張ネジを締め、削孔部分に固定する。

**注入材の混合**

- ・使用する注入材は、現場の要求条件に合う材質を選定し、可使用時間内に使用可能な量を、規定の配合比に計量後、均一に混合する。

注入材特性	注入材名	配合比
中粘度	ボンドE207D	主剤2:硬化剤1
グリース状	ボンドE209	主剤2:硬化剤1
可撓性	ボンドE2420D	主剤2:硬化剤1
湿潤面対応	ボンドE2800	主剤2:硬化剤1

**注 入**

- ・注入材をグラウトガンに充填した後、専用の接続カプラーで注入金具へ接続し圧入を行う。隣接の注入口から注入材が溢れ出るまで圧入を継続し、注入材の溢出を確認後、隣接注入孔へ注入金具(パッカー)を挿入固定する。続いて隣接注入口へ移行し圧入を継続する。この作業を連続して注入を完了する。

**シール、注入器撤去**

- ・注入完了後、注入口金具(パッカー)はパッキングゴム拡張ネジを緩めて抜き取りエポキシ樹脂パテ詰めを行う。
- ・注入圧を維持する場合は注入材が硬化する迄養生し、金具先端をハンマーで折り除去する。

完了